

08.ピサ



ピサと聞くと斜塔のイメージが先行するが、大聖堂（ドゥオモ）も歴史的、建築的にも興味深い。というのも、ピサのドゥオモ広場についたときに、妙な違和感を覚えるのだ。（それは斜塔の傾きも相まっているのだが。）その要因は、どこにあるのかということを考えながら、見ていくと非常に面白い。建築自体はロマネスク建築であるといわれているが、ローマ時代の建築様式を取り入れたり、ビザンチン様式の雰囲気も垣間見ることができたりと複数の様式が融合していることがわかる。歴史としては 1063 年にパレルモ沖でサラセン艦隊を破ったことを記念して建築されたといわれており、内部には円柱が密に並んでおり、柱自体はパレルモのモスクから戦利品として持ち込まれている為に、色や傷み具合が異なっている。当初は戦争の記念として建てられた建物ではあるが、イタリアの歴史の流れを汲みながらもパレルモの色合いを出すことでどこか無秩序なデザインが出来ている。

このような、歴史性や背景が手に取るようにわかる建築も珍しいと私は思う。斜塔も地盤の弱さを如実に表してしまっている。

（西澤 章太）